



▲代表質問する八重樫議員

知事トップにSDGs推進本部設置へ 重粒子線治療にローン創設と利子補給 2月定例会 公明党府議団代表質問より

2月23日から3月23日まで開かれた平成30年2月定例会で、公明党大阪府議会議員団は府政の諸課題に対し、府民の立場から議論を展開しました。3月1日には八重樫善幸議員（幹事長、豊中市選出）が代表質問に立ち、SDGs（持続可能な開発目標）や、最先端がん治療の費用補助などについて質疑・質問をしました。詳細は以下の通りです。

2025年万博誘致を実現へ 調査団は大阪を評価

国際社会が取り組むSDGsについて、「いのち輝く未来社会を掲げ、2025年万博誘致をめざす大阪府こそが率先して推進すべきだ」とし、全庁的なSDGs推進体制の構築を迫りました。知事は「SDGs推進のための庁内推進本部を設置し、全庁一丸となった取り組みを進める」と応じました。

3月7、8日にはBIE調査団が大阪を訪れ、大阪府・市の関係者との意見交換や会場予定地の夢洲を視察しました。調査団は政府による財政保証を踏まえ「経済的にも開催は可能」とし、国内機運の盛り上がりについても「市民の希望を確認できた」と評価しました。



▲BIE調査団と意見交換（3月7日、大阪府役所）



▲万博誘致ロゴの入った旗が並び御堂筋

がん患者の治療費負担を軽減へ

府内初の重粒子線がん治療を行うセンターが3月に開院したことに触れ、副作用が少ない最先端の重粒子線治療費が高額であることから、患者負担を軽減するための利子補給に加え助成制度の実現を訴えました。府は金融機関と連携した重粒子線治療費専用ローンの創設と利子補給の実施を明言しました。さらに、公明党府議団はがんと闘う子どもたち向けの治療費支援制度の創設を求めています。



▲府内初の重粒子線がん治療を行うセンター

LINEでいじめ相談 府内中高生39万人を対象に準備

中学生や高校生の間で広く使われているLINEを活用したいじめなどの悩み相談に本格的に取り組むべきだと問いただきました。府は政令市を除く公立、私立学校の全中高生39万人を対象に年間50日程度の実施へ準備していると答えました。



・討論より・

3月23日の本会議で上程議案などに対し、公明党府議団の意見を表明する「討論」をしました。概要は以下の通りです。

●わが会派が誘致を推進してきた20か国・地域首脳会議（G20）の2019年大阪開催の決定は大変に喜ばしいこと。万全の体制で会議を成功させるとともに、府民に開催の意義を理解してもらう取り組みを。

●子どもの貧困問題は府政の最優先課題。子ども食堂についての総合窓口を設置するだけでなく、ひとり親家庭の就労支援など施策を総動員して対策に当たるべき。

●少子化対策で教育の支援は重要。国による私立高校の授業料無償化制度が実現した場合、生み出された一般財源は教育支援や教育環境の充実に最優先に振り向けるべき。

公明党大阪府議会議員団ホームページはこちら。
▶ <http://www.komei-fu.com>



かきみ大志朗の主な実績

- 岸和田丘陵地区整備・農地中間管理事業で新たな農業経営体の育成や企業等参入促進を推進。
- ちきりアイランド埋立地の企業誘致及び携帯電話各社の電波感度が悪く改善要望を受け不感地域解消を推進。
- 東岸和田駅高架事業及び周辺整備の推進。
- 府立学校（高校、支援学校）の耐震化を推進。26年度100%に。非構造部材の耐震化も推進。
- 若者と中小企業のミスマッチ解消にフェイスブック、ツイッターを活用した情報サイトを推進し実現。
- 認知症高齢者の方が安心して暮らせる地域づくりに認知症サポーターの養成やその活動の支援等推進。
- 言語としての手話の認識の普及及び習得の確保に関し必要な手話言語条例の制定を推進。
- 泉州山手線大阪府都市整備中期計画（案）着手へ、また地元市町による災害時の活動拠点整備の具体化等と合わせ、都市計画変更、区間を定めて実施を推進。
- 自転車の安全で適正な利用の促進に自転車レーン整備の大阪府自転車通行空間整備緊急3か年計画を推進。

かきみ大志朗プロフィール●2007年大阪府議会議員初当選以来3期連続当選 ●1959年6月鹿児島県生れ ●国土交通省・海上保安庁に30年勤務。一等海上保安正で退職 ●環境農林水産委員会委員長・都市住宅委員会副委員長・府港湾審議会委員・府議団政務調査会長等歴任現府議団副幹事長 ●家族：子供2人は自立し、妻と二人暮らし ●座右の銘：さあ仕事を続けよう（アーノルドインピー）



30年3月議会 都市住宅常任委員会垣見の質疑 抜粋

Q 平成29年台風第21号による被害の復旧状況等について

A 土木施設の災害復旧については、被災直後には、府内の56箇所において道路の通行規制を行っていたが、このうち、48箇所が交通開放が完了し、残る規制箇所は、8箇所となっている。

今後、牛滝川および府道岸和田牛滝山貝塚線、国道173号、箕面公園など、対策に時間を要する箇所を除いて、河川については次期出水期となる5月末まで、道路については今年7月末までに、復旧を完了する予定。

Q 牛滝川、春木川、府道岸和田塔原線、そして大沢町での被害など、岸和田市域における被害について

A 岸和田市山直中町を含む、牛滝川の3箇所の護岸崩壊については、堤防保護のためのコンクリートブロック積による護岸工や洗掘防止のための護床工を実施する。春木川については、大型ブロック積による護岸工事を行い、これらの箇所については、5月末に復旧完了の予定。

府道岸和田港塔原線については、道路路面を保護するため、大型ブロック積による本復旧を行い、6月末の全面交通開放を目標に工事を進めている。

岸和田市大沢町における、牛滝川及び、それに隣接する府道岸和田牛滝山貝塚線の被害については、治水機能の確保を最優先に、河川内に崩落した土砂の撤去、搬出を進めており、本年の出水期までに土砂搬出を完了する予定。府道岸和田牛滝山貝塚線については、その後引き続き、大型ブロック積による道路路面の本復旧工事に着手し、本年秋頃の交通開放を予定。

Q 二級河川春木川の整備について

A 春木川については、昭和46年より、河川改修を進めてきたところ。

河川改修が必要な河口から平寿橋までの5.3km区間について、まずは、高潮対策事業として河口部の改修工事に着手し、順次、下流から、河川の拡幅や川底の掘り下げによる整備を進め、平成26年度に完成。春木川の全区間において、時間雨量80ミリ程度の治水目標を達成している。

Q 台風第21号では、春木川のJR阪和線下流で護岸の崩壊が発生。5月末に復旧見込みとのこと、春木川は掘込み河川で、幸いにも川から水が溢（あふ）れることはありませんでした。二級河川春木川の災害防止に向けた取り組みについて



▲大沢町牛滝川土砂流出場所の状況



▲大沢町牛滝川の仮水路の状況

A 春木川における護岸崩壊については、台風第21号による大雨の影響により、長時間、水位の高い状況が継続したため、川底の洗掘が進行し、護岸の基礎が深掘れし崩壊に至ったもの。

この事象を踏まえ、本府では、緊急的に河川施設点検、とりわけ護岸の基礎部については重点的に点検を実施した。その結果、春木川においては、岸和田市額原町付近の護岸際で川底が低下している箇所が見受けられたものの、緊急的に対策を講じる必要のある箇所はなかった。川底が低下している箇所については、直径20cmから30cm前後の石を敷き詰めることにより、護岸の基礎部を補強するための対策を行っていく。

Q 二級河川春木川の親水広場整備について、現在、公園から河川へ立ち入れないよう、仮設フェンスやロープなどが張られ、見た目も悪いうえに、傷みも目立ち、安全上も問題がある



▲中央公園 春木川の親水空間の状況



▲中央公園 春木川の親水空間侵入止めの状況

▲春木川八木橋付近未整備状況

A 春木川の親水広場は、地元の方々が集う岸和田市中央公園に隣接することから、整備後は、岸和田市が公園と広場を一体的に表面管理を行うこととなっている。これまで地域住民や岸和田市と整備内容について、議論を重ね、自然環境に配慮した護岸等の整備を行ってきた。今般、表面管理をする岸和田市と維持管理や安全対策等の具体的な内容について、協議調整が整ったことから、来年度より、残りの階段護岸や上面整備等の工事に着手予定。現在設置している傷みの目立つ、仮設フェンスやロープ等を撤去したうえで、新たに工事用フェンスを設置し、安全対策を万全にして工事を進めて、岸和田市と連携して、2019年冬の完成を目標に、親水広場整備に取り組む。

【要望】

近隣の八木橋付近にも、仮設フェンスで囲われた場所があります。こちらについては用地問題もあり、長年の懸案とは聞いていますが、周辺が整備されることもあるので、こちらもしっかり取り組み、エリア全体を綺麗に。

Q 府営岸和田大町住宅の活用用地について

A 岸和田大町住宅は平成24年度に全ての新築工事が完了し、平成26年度には古い住棟の撤去も完了。活用用地の土地利用については、岸和田市の八木市民センターが建設され、図書館が入るなど、周辺の方々からも便利になったと喜ばれていますが、その後、約3年にわたり、更地の大半が高さ約3メートルの塀に囲まれたままの状態。

府営住宅の住民のみならず、周辺の多くの住民が、高い塀に挟まれた通路を通行しており、現状のままでは夜間の犯罪発生など、安全面で課題がある。岸和田大町住宅の活用用地に係る取組み状況について伺う。



▲岸和田大町住宅活用用地の壁の状況

▲大阪府営岸和田大町住宅活用用地の状況

A 府営岸和田大町住宅で創出した活用用地のうち、残る約2.3ヘクタールについては、団地内通路に接しているものの、市道等の公道に接していないため、このままでは新たなまちづくりが困難な状況にある。

そのため、建替工事に伴い整備した団地内通路の一部と、活用用地に接して新たに整備する道路を、市の認定を受けた市道として移管できるよう、岸和田市と協議を進めてきたところであり、併せて、周辺への安全に配慮し、防犯灯や注意喚起看板設置等の対策を講じてきた。

これまで、市道認定する通路の選定をはじめ、通路内に埋設されたインフラ設備の状況確認、文化財調査の実施方法、水路橋の改修など、多くの課題の整理に時間を要したが、今年に入り、活用用地の活用に向けた道路等に関する市との調整が概ね整った。

Q 蜻蛉池公園の整備について

A 蜻蛉池公園は、平成23年度に広域避難場所に指定されるとともに、平成26年度には、新たに後方支援活動拠点にも位置付けられた。現在、防災公園として必要最低限の空間は確保できているものの、非常用電源の整備や避難に必要な通路の確保、出入口の拡幅など、その機能を最大限に発揮するための施設整備を行う必要がある。

このため、来年度、開設区域の非常用電源の整備を行うとともに、今年度に引き続き、本公園への主要なアクセスとなる岸和田市の市道・岸和田中央線に隣接する、未開設区域の園路や広場整備などを進めていく。

また、併せて、来園者が丘陵地のみどりや池周辺の美しい水辺を楽しみながら憩うことのできる、桜の丘や展望広場をはじめ、デイキャンプ場や休憩所なども整備する予定。

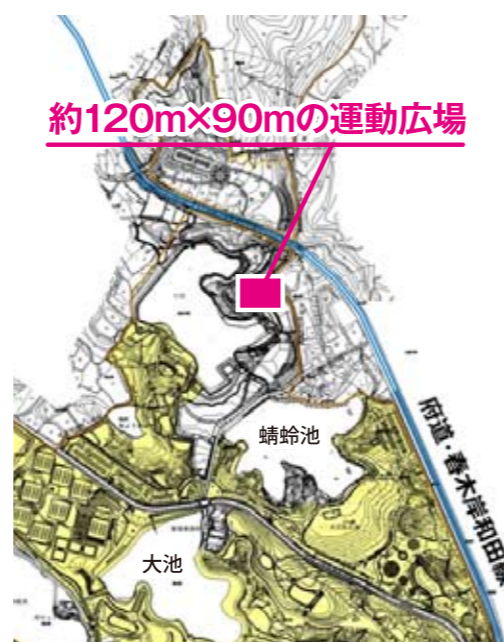
今後とも、「新・大阪府地震防災アクションプラン」の目標年次である2024年度までに、防災公園として必要な機能を確保するとともに、平常時には多くの府民にスポーツやレクリエーションの場として活用していただけるよう、魅力ある公園づくりを進めていく。

【要望】

蜻蛉池公園は地域の貴重な財産です。岸和田市では、ソフトボールやサッカーなどのスポーツが活発に行われていますが、スポーツのできる場が不足しているのが現状で、様々なニーズへの対応も必要であると思えます。通常時にはスポーツや休憩のできるような場所として使え、災害時には避難広場となるような多目的広場などの整備計画の検討をお願いします。

Q 今後のスケジュールと取組みについて

A 来年度は、新たに整備する道路に係る文化財調査、及び測量、実施設計を行うこととしており、その後、道路整備を行い、道路移管の完了後に活用用地を売却する予定としている。創出する活用用地の土地利用については、「府営住宅を活用したまちづくり会



▲蜻蛉池公園

議」において岸和田市と協議を進めており、引き続き、市と連携して、魅力ある地域づくりや地域の活力創出に取り組んでまいります。

Q 岬町に位置する深日港は、昭和24年以降、四国、淡路島を結ぶフェリーや旅客船が就航していたが、明石海峡大橋開通などの影響により、平成11年には定期航路が全て廃止。このため、岬町において、深日港の航路再生に向けて、淡路島の洲本港との定期運航社会実験や観光案内所の設置、深日港フェスティバルの開催など積極的に取り組んでおり、私も、この社会実験を視察するために深日港を視察、岸壁のひび割れ、矢板の腐食などが見受けられ、特に3号岸壁についてはフェンスで立ち入りが禁止され利用が制限されている状況。このまま老朽化を放置すれば、港としての役割が果たせなくなるのではないかと懸念している。

これまで、大阪府において、舗装の打ち替えなど局所的な補修工事を実施してきたことは一定理解できる。しかしながら、昨年、国道26号が全線開通し、深日港の交通ポテンシャルが格段に向上したことを踏まえると、これまでの応急処置的な補修では不十分で、抜本的な対策が必要ではないか。



▲深日港航空写真

そこで、岬町の航路再生に向けた取り組みも行われる中、深日港の老朽化対策にどのように取り組んでいくのか、伺う。

A 深日港については、委員お示しの通り、交通アクセスが向上するとともに、岬町の航路再生に向けた取り組みも行われる中、泉州地域南部における港湾機能の維持を図るとともに、今後の需要増加にも適切に対応できるよう老朽化対策を実施していく。

具体的には、整備後50年を経過し、劣化が進んでいるコンクリート構造物の岸壁は、長寿命化のための補修を継続するとともに、現在、利用を制限している3号岸壁については、既存岸壁の海側に新たな岸壁を整備する抜本的な更新工事に来年度から着手する。

今後とも深日港など、老朽化した港湾施設の補修や更新を着実に進めていく。

自転車の安全対策が条例化 大阪府自転車条例

垣見府議は、「早急に自転車安全利用に資する条例を制定すべき」と府議会で取り上げ、都市住宅常任委員会など様々な機会を通し、条例制定を働きかけてまいりました。

同条例は、自転車事故の防止や被害者の保険などを目的に、府や自転車利用者の責務・事業者らの役割などを定め、自転車利用者に保険の加入を義務付けている点が特徴です。学校での交通安全教育や自転車の点検・整備、ヘルメットの着用などに関する規定も盛り込まれます。



／やりました／ 公明党大阪府議会議員団の主な実績 ／できました／

府民の皆様から寄せられる様々なご意見、ご要望などをもとに公明党大阪府議会議員団が実現させてきた政策のうち、主なものを紹介します。

① 最先端のがん治療拠点を大阪に

昨年3月「大阪国際がんセンター」(大阪市中央区)が開院しました。最新鋭の放射線治療装置を3台設置するほか、患者の就労支援相談窓口や脱毛といった外見の悩みに対応するサロンもあります。

また、この3月には隣接地に「大阪重粒子線センター」が開院、10月から治療を始めます。放射線の一種、重粒子線を病巣部に集中的に照射することで、正常な細胞を傷つける副作用が少ない治療が受けられます。外科手術が難しい体の奥にあるがんや、すい臓がんなど難治性のがんにも効果が期待されています。

② 動物の殺処分をゼロへ

「大阪府動物愛護管理センター」(羽曳野市)が昨年8月に開所しました。動物の殺処分ゼロに向け、犬や猫の引き取り数減少や譲渡を進めるとともに、動物愛護に関する意識の啓発を図ります。

同センターは保護された犬や猫の飼育体験を通じ、ペットとの暮らし方を考える「施設学習型ゾーン」と、木々に囲まれた広場で動物と触れ合う「自然活用型ゾーン」があります。今後は小学生を対象に動物愛護の出前授業を予定しています。



③ 結婚に“縁ジョイパス”

府内在住の新婚世帯(結婚後1年以内)と1年以上に結婚を予定している人たち向けに「おおさか結婚縁ジョイパス」が昨年11月にできました。婚姻届の提出時に交付されるほか、スマートフォンやタブレットにパスを取り込んで利用できます。府内の協賛店の利用時にパスを見せると5-10%の代金割引や生活用品がもらえるなどの特典があります。有効期限は2020年3月末です。



④ 発達障がい者支援も前進

大阪府の総合就業支援施設「OSAKAしごとフィールド」(大阪市中央区)は精神・発達障がい者の就労支援に力を入れています。一人一人の特性に合わせたプログラムを用意し、カウンセラーが詳しく相談に応じます。

⑤ 府立高トイレの洋式化

今後3年間で107府立高校のトイレを順次洋式化していきます。各校とも1階から最上階まで垂直方向の縦一列に位置する1系統のトイレを全面改修します。すでに完成した高校は生徒が喜んでくれています。



無料法律相談

公明党大阪府議会議員団で弁護士事務所と提携し、無料で法律相談に応じています。

日時: 毎週水、金の週2回 午後1時から午後3時まで
場所: 大阪府庁本庁舎2階、公明党控室 大阪市中央区大手前2丁目1番22号
予約: 各府議会議員を通して受け付けております。前日の午後5時までにご連絡をお願いします。
相談: 弁護士との個別面談形式。1回につき20分程度です。相談内容を要約し、資料があればご持参ください。予約を取り消す場合は公明党控室までお電話ください。
電話: 06-6941-0286

